

## 第1回 野洲市観光振興指針策定委員会 会議結果報告書

●日 時

令和3年5月26日（水） 9：30～11：40

●場 所

野洲市役所 本館2階 第5会議室

●委 員 （全員出席 / 委員区分毎・50音順）

1号委員：田中 勝也委員長

2号委員：荒川 博行委員、井口 幸恵委員、川戸 良幸委員、北中 良幸委員、木村 靖副委員長、  
仲谷 禎紹委員、西田 秀孝委員、松沢 松治委員、吉川 文子委員、

3号委員：武内 了恵委員

●オブザーバー 奥本 晃士 滋賀県 商工観光労働部 観光振興局 観光企画室 主幹、  
進藤 武 野洲市教育委員会 文化財担当 次長

●事務局 栢木市長（途中からの出席）、環境経済部 西村次長、  
商工観光課 行俊課長、藤村専門員、吉山専門員、田中主任

●傍聴者 1名

1. 開 会 事務局（環境経済部次長）

2. 挨拶 環境経済部部長挨拶

3. 自己紹介 各委員、オブザーバー、事務局の自己紹介

4. 委員長・副委員長の選任 委員長は田中委員に決定、副委員長は木村委員に決定。

5. 議 題

（1）現行の「野洲市観光振興指針」5年目を迎えて（課題検証）

— 事務局より資料4・5に基づき説明 —

これまでの経緯としては、平成24年度に観光振興を含む「野洲市商工業振興指針」が策定され、その後、平成29年度に観光振興のみの指針となった。今年度5年目のため見直しを行う。今年度、第2次野洲市総合計画も定まっているのでその整合性も含めて検討する。

（2）野洲市の観光振興の目指す姿（目的）（案）及び「野洲市観光振興指針（案）」の骨子の検討について  
— 事務局より資料6・7・8に基づき説明 —

◆市長あいさつ（別件の会議終了後参加）市長からのあいさつ

6. その他 次回 策定委員会について

7. 閉会

## 結 果

・委員の皆様は活発に議論いただいた結果、次の方向で第2回策定委員会に向けて進める旨、ご意見をいただきました。

- ① 今後の野洲市観光振興指針の策定に向けて、全体の把握をするため、改めて野洲市の観光振興に係る課題を整理し直す。例えば、「1次観光」・「2次観光」・「3次観光」や「まちづくり観光」・「商業観光」、「歴史的な既存の観光」・「体験型等の新しい形の観光」、「地元主体の観光」・「大型観光施設関連の観光」等、何らかの 카테고リーに分けて整理し直し、野洲市が取り組むべき本当の課題を明確にする。
- ② 上記課題に基づき、どのような観光に対してどのように取り組んでいくのかを検討する。
- ③ 「観光振興を通じて目指す姿」の案については、最終目標的なものとして、もう少し近い目標を検討する。
- ④ 本日の各委員からの意見を踏まえて、委員長の協力のもと、事務局にて第2回策定委員会での検討材料を準備する。

## 主な意見等

### ◇野洲市観光振興指針の範囲等について

【委員】滋賀県希望が丘文化公園や県立近江富士花緑公園には年間100万人程度集まる。そのことを資産として、次にどうつなげるかを考えるべき。それらを切り離すのではなく頭に入れながら考えていくべき。

### ◇近隣市町や県域での連携について

【委員】今後野洲市の観光振興を考えたとき、近隣市町との連携は是非とも考えるべき。情報発信についても、野洲市が観光として近隣や県域との連携のなかでどう活用するか検討が必要である。

### ◇地元等での観光提供者の連携について

【委員】観光と食、農産物、アウトドア、健康などをつなぎ合わせて、観光に呼び込むことも必要。単独ではなく離れているものを結びつけ野洲を周れるミニツアーを考えるのも一つ。また、湖南4市でどのように結び付けて、一泊していただいた上で、湖南4市をどのように周っていただけるか等考えることにより、例えば、地元の農家との交流や体験を通じてもっと興味をもってもらえるかと思う。

### ◇観光振興指針策定の前提としての課題の整理について（課題のカテゴリー分類）

【委員】「1次観光～3次観光」や「まちづくり観光」と「商業観光」のカテゴリー等に分けるなど、課題検証についても一度整理して本当の課題を明確にする必要がある。また、対象を市内市外、県内、県外等に分けたり、観光についての野洲市の光（宝）を明確にして進める必要がある。

→【委員】再度の課題検証は、入り口論として整理し、全体の把握として大切であり、最終、どれを取るかは改めて選択すればよい。

◇観光振興に係る課題について（交通アクセス等）

【委員】観光にて人を呼び込むことは可能だが、やはり一番のネックは交通手段である。

【委員】公共交通機関の課題についても考えるべきだが、これから先はマイカー利用者の増加が想定されるなかで、対象者の年代や興味によってつなぎ方を検討していくことが大切。

◇「観光」と「まちづくり（生活・暮らし）」について

【委員】アクセス（公共交通）について、「暮らし」と「観光」を結び付けると、うまく暮らしを守りながら観光を進めることができる。「観光」と「まちづくり（生活・暮らし）」でうまく調整して指針を検討すると、地域の皆様に喜んでもらえるものになる。

◇「観光」と「情報化社会」について

【副委員長】これまで旅行会社は各会社にてPRして集客してきたが、個々で正しい情報取得が可能となった。従来型の観光展開ではだめだと思う。

◇「観光」と「文化・教育」について

【副委員長】「観光」＝「文化・教育」だと思う。現存していて、何も無いということは無い。この辺を整理する必要がある。

◇商業の視点・野洲市の観光の中心について

【委員】三上山登山者数も実際は県立近江富士花緑公園の年間30万人に近い数字が出てくるのではないかと考えている。やはり野洲市の観光の中心は三上山と思う。

◇観光ブランドの視点について

【委員】全く知らない人を集客するための一番のポイントは、国宝や重要文化財等の「観光のブランド」である。このように、何も知らない人を呼ぶということを前提にして観光振興指針を考えるのが一つの方策ではないかと思う。

◇次回策定委員会に向けて

【委員長】委員から市民への「教育」という提案があり、今後ご検討ください。観光について、過去の振り返りと、今後どのような観光に対してどのようにアピールしていくのか、歴史文化や体験型観光（農業を含む）等を検討する。

◇「観光振興を通じて目指す姿」について

【委員】例えば「観光振興を通じてまちづくりの活性化」等、もう少し近いワンステップの目標が必要。この案は、その次に来る最終目標で良いのではないかと思う。

◇広報活動等について

【委員】しっかり広報活動をすべき、観光の支援者ももっと勉強しないといけないと思う。